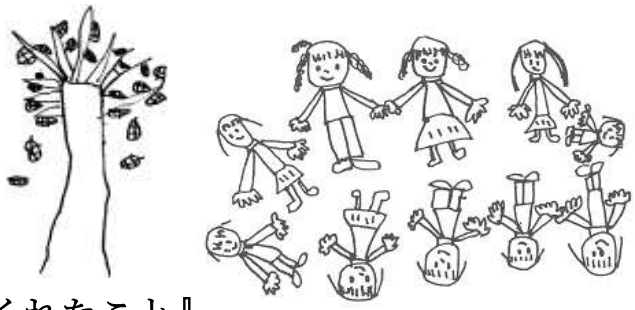
園だより



令和５年 11 月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

『コロナ禍が教えてくれたこと』

10 月 28 日、4 年ぶりに新田保育園バザーが開催されました。在園児、在園保護者はもちろん、地域の方、卒園児、卒園保護者、旧職員等が集いました。現保護者の方と 1 つの目標に向かって力を合わせるバザー。卒園児、卒園保護者と久しぶりに会い、新田保育園で働き続けていることを誇りに思うバザー。地域の方々がたくさんの協力をしてくれ愛されていることを感じるバザー。そして子どもを思いこのような集いを考えた先人たちに尊敬の念を抱くバザー。コロナ禍だったからこそ改めて感じることができました。何より 4 年ぶりの開催を中心になって考えてくれた現保護者の会役員の皆様、この間保護者の会を存続してくれた前保護者の会役員の皆様に感謝いたします。

さて先日、全国保育士会研究大会が静岡で開催されました。この研究大会に園を代表して石井あゆみ、後藤幸代が『コロナ禍での乳児期の身体づくり』というテーマで研究発表してきました。内容は、コロナ禍の中で、0 歳児の身体づくりをどのように行ってきたのか、実践記録とともに分析した考察を発表しました。

研究発表を依頼されたのは約 2 年前。「はい、研究発表します」といったことを後悔するくらいの資料作成数と研究者とのやり取りの多さ。現場は保育実践を重ねていくことに専念できるよう、論文作成は事務所職員で行いました。そして新田保育園がこだわっているのは、研究のために保育を進めるのではなく、保育実践したことを研究するということでした。

研究発表前日の打ち合わせで、「この研究のうりは何か？それを考えてきなさい」と、研究者の方から宿題が出ました。その夜、後藤、石井、濱本で浜松の美味しい料理を囲みながら考えます。「子どもが好きなことや楽しんでいる遊びを身体づくりに取り入れた。強制や無理強いではなく子どもと楽しんで進めてきた」後藤はそう語ります。石井は「この子にとってどのようなかかわりがよいのかを、みんなで考え実践し続けていることではないか」と熱く話していました。「よし！それでいこう」、そう決めて臨んだ当日。研究者の先生は「新田保育園が行った実践研究の素晴らしさは、社会状況を的確に捉え、それを即時に保育実践に活かしていること。コロナ禍が収束してから分析して対応することはできても、あの状況でここまで何かをしようとする園はなかなかない。この研究は未来に向かった身体づくりをめざされている」そう総括していました。

新型コロナウィルス感染症が流行していた 3 年間。「コロナ禍であろうと、この子たちの大切な時期は今しかない。だからどんな状況でも何ができるのか考え、できることは全て行う。前を見て進もう」と、職員一同必死で走ってきた日々が報われた気がしました。石井、後藤の堂々とした発表の姿と、園で保育を守る園長、職員のことを思うと涙が溢れてきました。そして私たちの研究はこう締めくくります。「私たちは、子どもたちを多角的に見ていくこと、その子にとっての最善なかかわりとは何かを見つけていく専門集団でありたい。子どもに携わる者として、探求心・向上心をもち保育にあたっていく」と。これからもこの言葉に責任を持ち、子どもたちとかかわっていきます。詳しい研究の内容は、12 月の配信でお伝えします。　文責　濱本昌子

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
十一月	健康体育（3・4・5歳児）	頭シラミチェック						避難訓練（津波想定）	冬まつり集会					冬まつり集会	健康診断（0・5歳児）	耳の話（5歳児）	誕生会（やきいも）・写真の日					マタニティ講座		マタニティ講座			マタニティ講座		冬まつり総練習	